

「気孔の探究(7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ツクサは、表皮(薄皮)が簡単にはがれ、小学生でも気孔の観察が容易である。しかし、観察したい時に入手可能とは限らない。子どもにとっても、必ずしも身近な植物とは言えない。



私は朝食のサラダのレタスを食べていて、「このレタスも葉だから、気孔があるはずだ」とふと思った。授業で子どもたちに話したら、「探してみたい!」と興味を示した。私は実験室の学習支援員の先生に頼んで、その場でサントクに走ってもらい、新鮮なレタスを買ってきてもらった。



一般に陸上の植物は、葉の裏に気孔が多い。このレタス、一体どっちが「葉の裏」なのだろう?実はレタスは葉が巻いて結球する。最後は開いて茎が伸び、タンポポのような黄色い花を咲かせる。キャベツはアブラナ科だが、レタスはキク科だ。キャベツには甘味があるが、レタスに独特の苦味があるのはその為である。

日本ではレタスはほぼ100%生食用で、野菜サラダには欠かせない食材だ。しかし、中華料理では加熱調理することが多い。加熱によって苦味が減るのだ。



実は、売っている状態で「表」に見えるほうが「葉の裏」である。レタスが成長して、葉が開いた状態を想像すれば、このことは理解できる。



レタスの葉も柔らかいので簡単に裂くことができ、比較的容易に薄皮(表皮)を分離させることができる。



これが表皮を剥離した状態。乳白色で弾力性があり、このままスライドに置いて、そのあと周囲をハサミかカミソリで切ると良い。さて、普段食しているレタスでも、気孔は観察できるのだろうか?